



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

九州豪雨から 3 年 熊本・球磨村で追悼

「今でもさみしい」

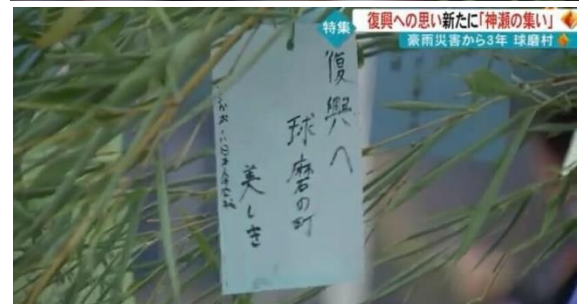
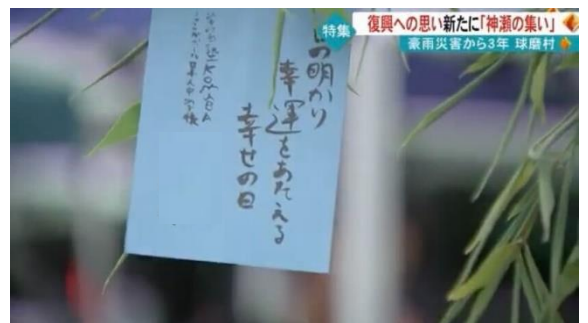


熊本を中心に九州 5 県で災害関連死を含め死者・行方不明者 81 人を出した 2020 年 7 月の九州豪雨は 4 日で発生から 3 年となった。被災地では、朝から遺族や住民らが花を手向けたり、黙とうをささげたりして犠牲者をしのんだ。

梅雨前線の影響で、数日前から断続的に雨が降る中、再び大きな災害が起きないか不安の中でこの日を迎えた。熊本県南部を流れる球磨川などが氾濫し、特別養護老人ホーム「千寿園」の入所者 14 人を含む 25 人が亡くなった球磨村では、午前 8 時半に村全域に追悼のサイレンが鳴り響いた。

球磨川河川敷では、ラフティング業者でつくる球磨川ラフティング協会 13 人が黙とうし菊の花を流した。淵田拓巳代表理事（46）は「いつも見ていた景色が違った景色になったのが忘れられない。この時期になると亡くなった方を思い出す。今でも寂しい」と話した。

熊本県によると、6 月末現在で 1128 人が仮設住宅（賃貸物件などのみなし仮設含む）に身を寄せる。千寿園は被災した施設が解体され、現在は同県人吉市のプレハブ施設で事業を続ける。球磨村の高台で再建工事が進められ、来春に新施設に移る予定だ。（朝日新聞）



球磨村で飾られた KOMABA 生の七夕の祈り



九州豪雨から 3 年を迎え、球磨川に向かって黙とうする球磨川ラフティング協会の人たち

6 月度の総合学習で、線状降水帯により発生する日本の水害について学びました。実際に球磨村に行った北山先生の「修復できていない線路、橋、道路がまだまだたくさんあり、徒歩では行けない場所があった」という話が印象的でした。私も東日本大震災の後、3 年経過した東北の海岸沿いに行ったことがあります。プレハブの仮設住宅やそのままにされたがれき、電車が動いていない線路を見て、私にできることは何があるだろうか、と考えました。災害時には大きくニュースで取り上げられてもその後も続く様々な苦労は見過ごされることがあります。総合学習で皆さんに作ってもらったそれぞれの祈りが実際に被災地に届き、ニュースでも取り上げられています。自分たちにできることについて今一度考え、各々の正しいと思う行動をすることが、社会全体が良くなっていく一つのきっかけになるのではないのでしょうか。

（依藤）